

～ All for one, One for all. ～

光 の 家

LIGHT HOUSE WITH THE BLIND

視覚障害者総合福祉施設

東京光の家会報

— 153 号 —

2009 年 7 月 31 日発行

悪しき者のはかりごとに歩まず、罪びとの道に立たず、あざける者の座にすわらぬ人はさいわいである。このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思ふ。

このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしほまないように、そのなすところは皆来える。

詩篇第一篇 一～三節

巻頭言

福祉施設からの発信(2)

社会福祉法人東京光の家
理事長 田中亮治



新生園二泊旅行にて、さくらんぼ狩りを楽しむ園生

前号(一五二号、二〇〇九年四月二八日発行)では、福祉施設利用者(入所者・障害を持つ方々)の所謂「自立」についての考えの一端を書かせて頂きました。敢えてその一部を少し長いが再掲いたします。…「そして自立には、様々な形があります。自宅に戻るケースもあり、利用者どうし結婚し二人で力を合わせて生活する場合もあります。何よりも、施設生活の中で、今まで出来なかった事が科学的・計画的、継続的訓練によって出来るようになり、『自律的生活』が可能になって喜ぶケースが圧倒的に多いのです。私は、これも立派な自立の実現だと考え、施設ならではの専門性のサービスだと認識しています。いかがなものでしょうか」と。

ところで、筆者は二十代後半から、かれこれ五十年余に亘って、施設経営事業に携わりながら重い障害を背負い、この重荷

会報 五言

一、後期高齢者と言われて嘆
くなかれ。人生の最高・最
善は七十五歳から。

一、高齢になって良き事の一
つは、世の中どんなに悪く
なっても、自分がどんなに
不調になっても永く付き合
わずに済むこと。

一、何事も高を括つては不可。
人生は畏敬の念が基本。特
に後期高齢者のような方々
が畏敬される社会は最高。
一、その点日本の国はどう
か？畏敬の念が無くなれば
至る処に腐敗はびこる。特
に権力は腐る。

一、人生の道は平坦とは限ら
ない。いや、大ていは山あ
り、谷あり、暴風雨あり。
これが人生。だから負けな
いで生きよう！

ありふれた社会生活が営まれて
いる人間そのものの生活の場
であります。

このような生活の場で、平凡
ではありますが、誰しもが望む
ように人間としての幸せを求め
て頑張っているのです。訓練の
成果に一喜一憂し、誉められて
は素直に喜び、時には涙をした
り極めて人間らしい一日一日を
過ごしているのです。

むすび

東京光の家は、視覚障害者の
ための総合福祉施設であります
ので、十代から九十代までの方々
が、それぞれの年齢区分に従っ
て必要な訓練をし、様々な生活
上の福祉サービスを受けていま
す。光を失つての生活は想像以
上の悩みや辛さが心身をおそ
うようです。それをどのように少
しでも緩和できるようにし、一
人ひとりの人生が、生きていて
よかったと感じるようにでき
るか、この点に施設側の力量が
問われるであります。

めて困難な状況にあるのは否定
し得ない現実であります。それ
でも彼らは一人の人間として、
たくましく生きて生きて生き抜
いているのです。様々な訓練に
積極的に参加し、施設内作業に
喜びを感じ、生活訓練等によっ
て、自分で出来るようになった
事には、自分の手と足とを使っ
てこれに応用するのです。そし
て、時には旅行などの行事を楽
しんだり、音楽などの文化活動
に参加して生活を豊かにしよう
と心掛け、更に、各種の地域社
会の行事にも参加するなど、人
間らしい誇りある人生を構築す
るべく頑張っているのです。同
時、その事によって、社会の多
くの方々からのご支援を与えら
れてノーマライゼーションの理
念の実現に励んでいるのです。

このような姿を間近に見て、
感動せざるを得ないのです。

福祉施設は何も特別な場所
ではありません。一般社会から
離れた処でもありません。ごく

を克服しながら懸命に生きてお
られる方々と生活を共にする幸
いを頂いてきました。従って、
私の人生の大半は、施設利用者
と喜びも悲しみも苦しみをわか
ち合ってきた人生でした。だ
から「お前にとって福祉とは何
か」と問われたなら私の答えは
必然的に「福祉とは私の人生そ
のものです」となるのです。実
際には、社会の多くの方々のご
支援を受け、又、家族の理解も
得たお蔭でもあります。とも
あれ、私は健康に恵まれ五十年
余一度たりとも休むことなく
倒れずに今日に至ることができ
ました。神と親に感謝です。同
時に、ここに至り得たすべての
根源は、施設利用者の方々の障
害の重荷に負けない、素直な逞
しい生き様^{ぞうさま}に接し感動を与えら
れてきた事にあるのであります。

(2)

しかし、あまりにも障害が重
く、社会的ハンディキャップが
大きいために、職業的自立は極

出会いを有難う

花笑の会 会長 赤津 晃子



この広い野原いっぱい
咲く花を一つ残らず

あなたにあげる

赤いリボンの花束にして

この歌で有名な歌手になられた森山良子さんが歌いましたこの歌が大好きです。この大好きな歌を「東京光の家」に係わるすべての方達へ捧げたいと思います。田中亮治理事長様、田中のぞみ常務理事を中心に、施設に係わる皆様が自愛に満ちた笑顔と態度で接している現場に何度も遭遇しましたし、来訪者の私達にも変わらないのです。その素晴らしい出会いに差し上げたいのです。

私が「東京光の家」について知ったのは二〇数年前の事でした。でも何処にあるのかどの様にしてお訪ねしたら良いのか分からずに時が過ぎてしまいました。七年位前のある日、相撲の高砂部屋が集まりで私の母校で教鞭を取られていた菅野秀郎先生に偶然お会いしました。私は先生に「高砂部屋とはどの様なご縁ですか」と伺いましたらまずご自身が「東京光の家」の理事をされていて水戸泉（錦戸親方）や小錦などが、りんごなど差し入れに来て下さり、お相撲さんの大きさを知らない利用者に顔や手を触らせたりとても親切にしていただいてるご縁と話されました。私は東京光の家と伺いましたいろいろと質問をさせていただきました。その後

菅野先生とお会いする機会がございました時、東京光の家の要覧を下さいました。其の時はじめて『正秋バンド』を知る事となり、何かの折りに演奏会をお願いしますねと云われました。私は川崎市多摩区にある社会福祉法人なごみ福祉会後援会「花笑の会」会長をしていましたので、何ができるか考えてみました。その頃私は多摩市を中心とするある奉仕団体に所属をしていましたので、奉仕資金獲得のため提案をして『正秋バンド』のコンサートをバルテノン多摩大ホールで開催する事になりました。奉仕団体会員一同、経験のない事をするわけですから当日まで不安を抱えていました。東京光の家の指導者皆様のご協力と取分け菅野秀郎先生のご尽力により一四〇〇人の席がすべて満席となり『正秋バンド』にも支援する事が出来ましたし、来会され初めて全盲の方の演奏を聞かれた人たちの衝撃は、この

出会いにより感動と勇気をいただきました。

川崎市多摩区周辺で『障害の有無にかかわらず地域の中であたりまえの生活』を基本理念に親亡き後も当たり前の生活をさせてあげたいの気持ち一つで後援会を引き受け、活動費を捻出している「花笑の会」会長の私は今こそ同じ様な理念で音楽療法を取り入れている『正秋バンド』に出演していただき、共に考え、勉強し理解し合える仲間で在りたいと企画をさせていただきました。二〇〇六年六月二四日川崎市登戸の多摩市民館大ホールで『正秋バンド』チャリティーコンサートをさせていただきますました。私はどうしても正秋さんのピアノ伴奏で島田祐子さんの歌を聞きたいと希望をしてどちらにも交渉しました。どちらも初めての試みでしたが演奏会は新鮮で素晴らしい盛り上がりでした。後に島田さんから正秋バンドと共演した事がラ

イフワークの一つになるかも知れないとお聞きしました時にはほっと胸を撫で下ろしました。その言葉どおり『花笑の会』の演奏会にご来場頂いた国際ロータリークラブが二〇〇七年東京地区大会に演奏会を、埼玉でもそして二〇〇九年四月四日に昭島ロータリークラブ創立二〇周年事業として昭島市民ホールで演奏会が開催されました。実行委員長は私の中学校からの同級生でした。演奏会はこの会場も大成功でした。この数年の『東京光の家』と『正秋バンド』島田祐子さんとの出会いはすべて神様のお導きと心より感謝しています。その出会いをお作り下さいました菅野秀郎先生にはお礼を申し上げます。これから出来る限りこのご縁を大切にしていきたいです。



一人で買い物ができるようになりました。

障害者自立支援法下の新事業体系に移行し、新年度を迎えて早三ヶ月が経ちました。法律は変われども、これまでの訓練を継続し、如何にして園生の「安心と安全と希望」を守るか、模索の日々が続いております。新生園は開設して三〇年。盲重複障害者の自立を支援する専門施設として歩んでまいりました。園生は、視覚障害に加え、知的障害やその他の障害を併せ持っています。障害がもたらす影響

各施設のトピックス

指定障害者支援施設 光の家新生園

それぞれの可能性を信じて

は、重なった障害分だけ重くなるのではなく、相乗的に重くなります。そこに支援の難しさがあるのです。

先天性の視覚障害者である園生にとって、「模倣」は困難です。その為、歩く・走る等の、人間の基本的動作の習得から支援する必要があります。一般的に、視覚障害児は、運動発達において筋緊張の低下や、固有感覚知覚の制約、原始反射・反応の統合が不十分です。筋緊張は運動を開始するのに不可欠なもので、多くの視覚障害児に緊張減退が見られます。又、乳幼児期に発達が始まる固有感覚は、身体覚知、筋緊張、協応動作、姿勢、歩様、バランス等の適切な発達に対する重要な役割を担っています。

このように運動発達障害がある

り、さらに模倣学習が困難な園生に対して、我々が出来ることは、まず「観察」です。歩行ならば、足底を地にべたと付けて歩いたり、膝を屈曲させて重心を下げて歩いていないか観察した上で、適切な姿勢や足の運びを指導します。しかし、盲重複障害者である園生への支援の難しさは、その先にあると言えます。言語による理解の難しい園生には、直接手を取り、何度も繰り返し支援する必要があるのです。反復練習に飽きないよう、園生のモチベーションを維持することも、我々支援者の重要な役割と言えます。

ひたむきに訓練に臨む園生に對し、可能性を信じて、忍耐強く支援すれば、必ず成果は表れます。彼らの能力を引き出す為に、又彼らが生き甲斐を一人ひとりの手と足で見出すことが出来るよう、我々は今日も訓練に向かいます。

(新生園訓練課 保立 愛)

指定障害者支援施設 光の家栄光園

その人にとって必要な
個別支援を目指して…

光の家栄光園は昨年度三月から障害者自立支援法の施設となり、利用者の皆さんも毎日の生活がどのように変わるのか、職員の体制がどうなるのかなど当初は不安になっている方もいました。確かに日中活動生活介護就労支援B型など聞きなれないことばに職員も戸惑いがありました。しかし、新法移行をして

もそれまでの日中活動は大きな変化はないように配慮し、今まで通り作業を中心とした生活を送れることで利用者の皆さんに安心して頂く事が出来ました。

また、生活面を整えるためのTDL (Techniques of daily living) も今まで同様に内容や課題を担当職員と相談して進めていきます。実施についても週一回から季節毎と園生にその頻度を希望選択してもらっています。



必要なことを一緒に考えます。

しかし、内容について担当職員と相談してはいるものの、新法移行したことで宿直から夜勤になり、担当者がいつもいるとは限りません。そのためにどの職員でも利用者の希望や課題に沿った支援が出来るようにチェック表を共有してサービスに当たっています。その内容は

具体的に衣類整理、寝具を整える、居室掃除、美容室・理髪の利用、小遣い帳の確認などですが、このチェック表を活用することで必要な支援がもれることなく行なえるようにしています。

特に月に一回ほどのTDLではいかにその時間を充実できるかによつて季節に応じた生活、豊かな生活が送れるかと言うことに影響します。衣類や寝具の準備をすることで健康維持

にも繋がってくるのです。

さらに最近では年齢に応じて運動や健康についての情報提供などでも大切な支援になっています。健康維持の必要性は判つていてもなかなか難しく、その人に合った方法を一緒に考えたり取り組むことが大切です。これからも一人一人の気持ちを大切にしながら個別の支援をしていきたいと思っています。

(栄光園生活支援課 押金 好美)

救護施設 光の家神愛園

健康で明るい生活を目指して

今年度がスタートして早三ヶ月が過ぎました。この春に新生園・栄光園は新しく障害者自立支援法下の新事業体系に移行をしましたが、生活保護法

生活者、刑期を終えたが高齢になりすぎて単身生活が困難になった人など社会的な受け皿としての役割が大きくなっているように感じます。

に基づく救護施設の神愛園では大きな変化はありませんでした。しかし、救護施設の社会的役割としては、近年精神科病院の長期入院者やホームレス

そのような新しい園生も増える一方で、光の家で五〇年以上生活をしている方や明治生まれの方など神愛園を人生の終の棲家として神様に見守



おいしい食事で元気いっぱい！

られながら穏やかにそして安心した生活を送られている方も多くいます。そんな中我々職員に求められることは『老い』について理解し高齢者の心理に配慮した支援が必要とされます。また、健康面では起床時から就寝まで検温だけでなく、急変時にも対応できるようにAEDの設置やパルスオキシメーター（動脈血酸素飽和度測定器）、酸素ボンベなども導入し勉強を重ねいつでも使えるようにと取り組んでいます。

それとは逆に三〇代〜五〇代の健康上の心配といっても肥満などの生活習慣病でまだまだ体を動かしたり、旅行の行事などでも遠くに出かけたいという方も多くいます。そんな方々には毎朝施設周辺の急坂を利用した散歩などやサークル活動など体を動かせる機会を設けています。

八〇名一人一人がそれぞれの特徴を持つており、十把一絡げの対応ではなく、一人一人に対して何が必要で、実現のためにはどのような支援を必要としているかという見極めをし、支援の選択をする事がとても重要であり、とても難しく感じているところでもあります。これからも園生の健康と穏やかな人生の手助けを微力ながらも一生懸命努めさせていただけばと思います。

（神愛園指導課 情野 直人）

視覚障害者ガイドヘルパー講習 受講案内(東京都指定研修)

～視覚障害者との歩き方・援助の仕方を学びませんか～

この講習は、視覚障害者のガイドヘルパーとして必要な専門知識と援助技術を学ぶ東京都指定の養成研修です。この講習では、視覚障害者のニーズに対応できる人材の育成を図り、地域で暮らす視覚障害者の生活の充実・質の向上に向けた地域福祉サービスの振興及び発展に貢献することをめざしています。



〔日 時〕平成21年10月3日(土)・4日(日)

〔場 所〕東京光の家 地域交流センター 研修室他

〔費 用〕15,000 円～〔定 員〕20 名 ※定員になり次第メチ

〔研修修了者〕研修終了後、東京都認定の視覚障害者移動介護従業者養成研修修了証明書を取得することができます。

光の家鍼灸 マッサージホーム

今、思っていること

私の母は、六年前の冬に突然くも膜下出血で亡くなりました。父も、二年前ガンとの闘病生活の末帰らぬ人となりました。

父は建築士、母は調理師の仕事をしてながら、私と双子の兄を育ててくれました。小さい頃より特に母は私に厳しく、料理、掃除、洗濯と教えてくれました。今となつては、兄と二人の生活になりましたが、日常の生活に困ることも無く過ごせるのも母のおかげだと思います。

また、両親は私が四歳の時から声楽とピアノのレッスンに通わせてくれていました。将来、私は音大へ進む事を夢見ていました。

父は「たとえ音大に進んで音楽を勉強したとしても、それで食べて行くことはとても難しい

と思うよ。音楽の道へ進むよりも何か資格を得たほうがいいと思うよ。」と言ってくれました。私は悩んだ末、八王子盲学校保健医療科に進みました。

実技が苦手だった私はとても苦労しました。授業で習ったことはすぐには飲み込めず大変でした。そんな私のために、母は仕事の合間を見つけては練習台になってくれました。一日も欠かさずに三年間続けてくれました。

マッサージの練習台になってくれた母。資格を取るようにと私の背中を押してくれた父に心から感謝しています。

二年前から友達と一緒に指圧を習いに行っています。

仕事を始めたばかりの時は按摩を主としてやっていたので手技療法をそっくり変えるのは

とても大変です。自分のものになるまでに約一年かかりました。これからも色々な技術を習得して、患者さんの苦痛を取って、喜んでもらえるマッサージ師でありたいと思います。

今でも両親はいつも私の側にいて励まし、見守ってくれているように感じます。両親の念願である独立開業を目指して頑張って行きたいと思っています。

(マッサージ師 中島 和子)



患者さんに喜んでもらえるように、毎日が勉強です。

法人施設役員

理事長・評議員

田中 亮治

常務理事・評議員

田中 ノゾミ

理事・評議員

相澤 忠一

菅野 秀郎

篠崎 友照

杉山 閑男

松本 栄二

亀岡 寛治

監事

藤川 又義

洋 治

評議員

石川 左門

岩島 清

遠藤 文子

加藤 保武

佐藤 宣子

安藤 勝子

山田 健太

石川 政

食事課

栄養ケアマネジメント



東京光の家でもこの度、栄養ケアマネジメントを開始する事になりました。その内容は、園生の個別支援サービスを栄養面でも見ていくという事になります。その実際の流れは、まず利用者の栄養スクリーニングを行う。身長、体重、BMIを算出し、食事摂取状況を調べ、栄養ケア計画を立て、合併症のある方等は食事内容の変更、偏食のある方、お菓子など過食傾向にある方などは関わって改善策を考えていく。三ヶ月後に数値の結果からまた見直し、改善に関わる。その繰り返しを行っていく事となります。

（食事課管理栄養士

藤村 寛



園生一人ひとりに嗜好調査を行う栄養士

簡単に言えば各園生の医療面、健康面、生活面でトータル的に栄養状態を理解し支援していくものであり、もちろん各園生の状況は今までも各立場で

医務課

安心・安全を第二に



光の家神愛園では六五歳以上の利用者が半数以上を占めるようになりました。最高齢者の女性Sさんは、今年白寿（数え年九九歳）を迎えます。明治生まれのSさんは気丈で、健康には特別気を使っておられ、入浴では「たわし」で皮膚をマッサージしていると恥ずかしそうに話してくれました。特に好きな事はラジオで野球中継を聴く事で常にラジオから情報を得ており、これが老け込まない秘訣と感心しました。

（医務課看護師

古川 あや子



日々、園生のケアをし予防に努めています。

「生活が基本」である、高齢者支援にとつて、障害や身体機能の度合いも全く同等の人ではなく、マニュアル的なものは通用しません、その日、その時点で柔軟な対応を心がけております。高齢者は転倒による骨折や、誤嚥からの肺炎にもなりやすく、

単独帰省

光の家新生園 保護者 浅石 裕子

私の息子は、平成八年、二〇歳で東京光の家に入所し早いもので二三年が経ちます。秋田盲学校時代から光の家の凄さ、素晴らしさは伝えられていたのですが、全国から入所者が殺到し狭き門故、絶対入所不可能とされていました。高校卒業後、お世話になっていた訓練センターの紹介で、平成七年九月に見学させていただき、帰りには「どうしても入りたい、何年でも待つ」息子の決意にオロオロしたものです。当時、私達夫婦は県外に旅立せる事は考えておらず、ただ遠い！離れたくない身勝手な理由で反対したのです。又、何故か地域の方（道を尋ねた際）タクシードライバーの方に「一生懸命お願いしなさい」声を掛けられた言葉が印象に残っています。今はたと

え離れても皆と仲良く生活できれば、一番の幸福で有ると思う様になりました。忘れもしません平成二〇年十一月二日「何時の日か秋田に必ず一人で帰りたい」その目標を成し遂げたのです。息子は緊張しながらも笑顔で「ただいま」。涙が止まりませんでした。新生園に早速連絡している様子を見て思いました。報告ではなく共に支えてくれた東京の家族へ、この喜び、感動、達成感を伝える姿で輝いてました。園長先生、職員の皆様へ大変ご心配をかけたハラハラドキドキの一泊旅行でした。ここ迄にはご苦労が有ったと思います。園長先生、職員皆様御指導有つての今日の息子の成長です。これからもよろしくお願ひ致します。

東京光の家で活躍するボランティア

園生が生き生きと仕事ができることに感謝

ボランティア 北原 綾子

私は八王子に来てまもなく「東京光の家」のガイドヘルパー講習会を受けるに当たつて、その時に「光の家」の存在を知りました。視覚障害者総合福祉施設として、歴史ある立派な施設であると同時に、園生の方々が明るく、楽しく過ごされている姿を見て、本当に感動と同時にうれしくなつて、今に至っております。

これから先も「東京光の家」がますます栄えていかれることを心から祈っております。

この光の家のシステムと歴史の上に立って、すばらしく運営されていることに感謝しております。私の行く先々、「光の家」を褒め称えています。この不況の中、園生一同が暖かく見守られながら、生活されていることに感謝の言葉で一杯です。

私は毎週木曜日の午後から光の家栄光園でお仕事のお手伝



共に楽しく作業を行って頂いています。

神愛園旅行

笑顔をとせて

緑香る五月二十七日、青梅かんぼの宿に向かう施設車両の中は日頃、物静かな利用者の皆さんのにぎやかな笑い声でいっぱいでした。

体力的に近くなら参加できる利用者十名と職員五名で、「八王子滝山道の駅」を経由して青梅かんぼの宿をわくわくしてめざしました。

宿ではご馳走をいただき、お店ごと買い占めるのではないかと、と思うほどの面白い物を楽しみ、のんびりと温泉に入り、旅行気分を満喫しました。

ただ高齢化、障害の重度化に伴い、客室内の段差が越えられなかったり、大浴場の洗い場の手すりが無いために立ち上がれない利用者もいました。又、畳部屋の床からさえも立ち上がれない為にベッドの方が良い利用

者も増え、今後の課題が残りました。

「来年も来れるようにと体力をつけましょう」などと車内でそう話し合い家路につきました。

(神愛園指導課主任

西脇 曉美



みんなで記念撮影！

栄光園旅行

栃木を満喫！

栄光園では六月二十五日～二十七日、七月二日～四日の二班に分かれて栃木方面へ二泊旅行に行きました。

初日は宇都宮餃子館で昼食を取り、蒸し餃子、焼き餃子、水餃子など数々の餃子料理を堪能しました。

二日目には日光江戸村で、所属俳優によって行われる迫力あるアトラクション等を楽しみ、三日目には、陶器の町として有名な益子町にて自由行動を満喫しました。それぞれ自分や家族、施設に残留している仲間などにいろいろなお土産を購入し、とても楽しめた旅行となりました。

栄光園の利用者は日々、自身自身の持つ力を最大限に活かして、作業に取り組んでいます。毎年二泊旅行を終えた、利用者

に触れ合うと、「旅行で楽しい思いができた。これからも仕事をがんばろう」という作業への意欲が伝わってきます。

これからも、参加した利用者全員が楽しめるような二泊旅行を企画していきたいと思います。

(栄光園生活支援課

松浦 達朗)



何かいいお土産はないかな？

新生園旅行

スパリゾートハワイアンズの旅

七月七日、七夕の日に新生園は二泊旅行に福島へ出かけました。梅雨の真只中ということもあり、天候が心配されましたが、スタートから三日間、穏やかな天気恵まれました。

旅行初日、福島までの移動は電車と新幹線でした。鉄道を利用しての移動は園生にとって着々と目的地に近づいている実感もあり、また新幹線の中で食べた昼食の駅弁も楽しみであつたようです。福島到着後はサクランボ狩りの農場へ向かい、そこでつやつやの真っ赤なサクランボに手を伸ばし、ジューシーなデザートタイムを満喫。宿泊先のホテルハワイアンズでは、

フラダンスをダンサーと一緒に体験し、得意げな表情で踊る園生の姿がとても印象的でした。

二日目は終日スパリゾートハワイアンズで過ごし、プールでスイミング、温泉でリラックサス、ショッピングなど、それぞれが希望するアクティビティに参加し、たっぷりと遊

ぶことができました。最終日の三日目は成田ゆめ牧場で搾乳体験をし、昼食はバーベキューでした。ほとんどの方が恐がることなく搾乳体験をし、毎朝飲んでいる牛乳はこう搾るのかと感心する声も聞かれました。実際に体験するイベントが多く、よく食べ、よく遊び、たくさんさんの貴重な思い出を残すことができました二泊旅行となりました。

(新生園訓練課 嶋倉 春菜)

フラダンスは腰の動きが大切！



フラダンスは腰の動きが大切！



牛の乳しぼり初体験！

寄付者名簿

平成二年四月六日

七月八日

阿久津隆様

梅

二、四 kg

綾木潔様

スイカ

二個

市川久子様

小松菜

六〇、八 kg

共同募金様

六〇〇八、一九三円

熊谷幸夫様

塩蔵ワカメ 一五 kg

小西慶亮様

バナナ

二二九本 (二八 kg)

佐藤農園様

アスパラガス 二四 kg

城山鶏園 加藤泰文様

メロン

八個

卵

三三八個

杉山ナツ様

トマト

二七個

角田シズ様

そらまめ

三 kg

比嘉光子 康彦様

計三六 kg

三〇個

久井政男様

ヘルメット

二四個

日野原重明様

電子オルガン

一台

平出実様

アップライトピアノ

一台

北海道深川市長山下貴史

（きたそらち農業協同組合）

米（深川産ふっくりんこ）二一〇 kg

松原茂樹様

書籍

二冊

※紙面の写真は、すべてご本人の許可を得て掲載させて頂きました。

（11）

正秋バンドチャリティーコンサート
東京光の家創立九〇周年記念
愛のサウンドフェスティバル



日 時：平成二二年一〇月三十一日（土）開場一四時〇〇分

開演一五時〇〇分

会 場：日野市民会館大ホール（日野市神明一―二―）

JR中央線 日野駅下車 徒歩一五分

福祉協力券：一枚二、〇〇〇円

会 会：高田 敏江

お問い合わせ先：社会福祉法人東京光の家

〇四二（五八二）二三四〇

◎収益金の一部は、ささやかですがチャリティーとして福祉団体等に寄付させていただきます。

「第32回東京光の家
チャリティーバザーに
物品提供を」

東京光の家チャリティーバザーに多くの皆様のご協力をお願いいたします。

★期日 一〇月二日（月）

体育の日一〇時より

★会場 旭が丘東公園

（東京光の居前）

★提供品についての希望

日用品・おもちゃ・文具・
雑貨品・食器・食品・
衣料品（新品同様のもの）・
古本・CD等

★お断りしているもの

家具・中古の電気製品・
布団・雛人形・五月人形・
ゴルフセット等

★提供品受付期間

九月末頃まで（ご連絡頂ければ回収にお伺いいたします。）

※尚、当日にお手伝いをしていただけるボランティアの方達も募集しています。

あ と が き

あじさいの花が雨にぬれて、美しく咲いているのを見て、美しく自然の美しさを一層感じます。今年は温暖化現象と言われ、急に暑い日が続きたり、雷が落ちたりと忙しい日々でした。これでいよいよ梅雨明けという事でしょうか。海に行楽のシーズンがやって来ます。

生活が豊かになり食生活が改善されたが、一方で糖尿やガンが多発、一汁一菜（の粗食）が最高の食といわれます。

会報一五三号を送りいたします。ご覧いただければ幸いです。

（N・T）

発

行 〒一九一〇〇六五

東京都日野市旭が丘一―七―七
社会福祉法人 東京光の家

電話 〇四二（五八二）二三四〇

FAX 〇四二（五八二）九五六八